

視察（研修）報告書

令和5年10月31日

府中市議会議長 様

会派名 新しい風

日 時	令和5年10月24日
視察（研修）先	にいざビジネスサポート（埼玉県新座市）
視察（研修）項目	にいざビジネスサポートの機能やその運用と成功事例の調査
参 加 者	田邊 稔、森川 稔
視察（研修）内容	新座市の中小企業を取り巻く環境は、企業全般における最大の課題は、売上の不信であり、改善策は販路拡大と言うことで、市役所内に「経営のワンストップ相談窓口」を設置し、中小企業診断士による利上げ拡大や、経営課題解決に繋る提案等のビジネスコンサルティング業務を行っている。 補助金支援策を導入し、ワンストップ相談窓口との相乗効果により、経営課題解決の一層の支援を図っている。 コンセプト：「無料」で、「何度でも」、「伴走」する経営相談 [実績] 延べ相談実績件数 170件（70事業者）R5年4月～9月 [成功事例] ・接骨院の経営について、事業拡大を図るため同業者向けに自身の事業ノウハウに関するセミナーをするため、ビジサポが埼玉県経営革新計画承認申請のサポートなど実施して、順調に売り上げを伸ばしている ・エステ経営について、顧客獲得の伸び悩みについて、ターゲットを絞った販促活動の提案等で支援中。 今後の課題としては、この事業の周知を図り、創業者や小規模事業者支援に注力することと、事業継承やM&A支援などを行うこと。

所 感	・開設2年目ということで、まだまだその体制は取れていない状況に思えたが、にいぎビジネスサポートの活動のポイントは、市役所直営で2名の職員で受付と進捗や実績管理などを行い。実務には関与されていない。経験のある中小企業診断士が相談に乗り、小規模事業の新規参入や事業の再構築など、これまでの経験を踏まえたアドバイスをされて、相談者の要望に応じて実績も上がっている。できるところからコツコツとされている状況であり、個人で素人が商売を始めるサポートなどは参考になった。 ・個人事業者に対する経営相談窓口で気軽に自由に何回でも相談できるサポートセンターで、新座市の抱えた問題に対応するものではない。個人で仕事を始めたいとか、補助金を受けたいとかの相談が無料なので気軽さが受けている。 サポーターも中小企業診断士なので、あらゆる相談に応じられる。府中市では商工会議所が定期的に行っている「経営よろず相談」があるが、それよりも敷居は低い。福山の図書館で月1回やっている経営相談に近い。 新座市は、都心に近く多種の中堅企業が多く、あまり衰退は感じられなかった。府中市の場合は特定の産業が集中して発展してきたので、産業構造が変わればその影響を受けやすい。その点で市の産業振興対策も変わってくる。 その意味で、ビジネスサポートの運営は府中市の産業関係室の運営の参考にはならなかった。
-------------------	--

視察（研修）報告書

令和5年10月31日

府中市議会議長 様

会派名 新しい風

日 時	令和5年10月25日
視 察（ 研 修 ） 先	経産省製造産業局 （衆議院第一議員会館）
視 察（ 研 修 ） 項 目	E V への移行に伴う産業構造の変化と対応
参 加 者	田邊 稔、森川 稔
視 察（ 研 修 ） 内 容	経産省製造産業局自動車課 戸塚課長補佐にお越し頂いて、「E V への移行に伴う産業構造の変化と対応」と言うことでレクチャーを受けた。 ・自動車産業が大きく変化する中、自動車部品サプライヤーによる「攻めの業態転換・事業再構築」の実現を後押しする支援事業：「ミカタプロジェクト」を、昨年度から開始し、全国各地の支援拠点による次の伴走支援を行なっている。 ・セミナー・実地研修 1,938 社参加 ・窓口相談対応 675 件対応 ・専門家派遣 63 社派遣 （R4 年実績）  業態転換に向けた設備導入等への補助として、事業再構築補助金「グリーン成長枠」により、設備投資・研究開発等を支援している。 ・現在の支援拠点として、自動車産業集積地を中心に「地域支援拠点」を設置し、地域密着型で中堅・中小サプライヤーの事業転換・事業再構築に対する伴走支援を実施。 ・広島県の支援拠点である「ひろしま産業振興機構」における主な取組として、令和4年度から、 ① E V 技術理解・広島独自の新技術開発 ② E V 開発が出来る技術人材育成の支援を目的 として、「E V 研究プロジェクト」を立ち上げ推進している。

	また、2025 年までに、参画企業ごとに E V 化対応の新たな独自技術を確立するとともに、自動車メーカーへの提案等を目指し、支援を行なっている。
所 感	・ E V の進む方向や本格生産の時期についてお聞きしたが、経産省としてもなかなか予測しにくい状況にある。そのため、エンジンの技術を応用したり、不足する技術を補ったり、E V 化のための新しい技術を取り入れていくなどして、全方向の対応ができる体制を整えていくことを心掛けておくことが現時点では重要。 また各地区に地域支援拠点を設けて専門の担当を置き、企業等からの相談に応じる対応を作っているということで、個別企業が危機感をもって、E V 化に向けた各々の課題や問題点をだして、相談していくことが重要と感じた。府中市では産業連携室が中心となり。中小事業者を集めて E V 化に向けた動きなどのセミナー開催を行うなどして、事業環境の変化を周知させていくことから始める必要があると感じた。 ・ ミカタプロジェクトが自動車関連業界で研究会を作り、各企業に構造転換に向けた設備導入を促しており、広島県でも広島産業振興が仲介機関となっている。 マツダの O B で、エンジン技術に精通されており、府中市の企業も興味を示すのではないかな。 研究会なり講演をする場合、専門家の派遣等を行うと言っているので、府中市も商工会議所が中心になって利用すれば良い。広島産業振興も「E V 研究プロジェクト」を立ち上げ「振動・騒音」、「軽量化」の研究を始めている。 地方の場合、ミカタプロジェクト自体知らないことが多く、積極的に手を上げなければ補助メニュー等を利用できないので E V 化から取り残されてしまう。

視察（研修）報告書

令和5年10月31日

府中市議会議長 様

会派名 新しい風

日 時	令和5年10月26日														
視 察（ 研 修 ） 先	文京区青少年プラザ														
視 察（ 研 修 ） 項 目	青少年プラザのもつ設備や機能による効果についての調査														
参 加 者	田邊 稔、森川 稔														
視 察（ 研 修 ） 内 容	文京区青少年プラザ（b-1 a b）は、主として中学生と高校生を対象に、自主的な活動の場及び交流の場を提供することにより、青少年の自主性及び社会性を育むために、リビングのようなスペースや、勉強、バンド活動、ダンスなどができるスペースがあるほか、文化・学習支援などのイベントを実施し、更に、中高生がイベント企画やd-1 a b運営にかかわるステージもある。 次の様な項目についてお伺いをした後、管内の見学をさせてもらった。 ・運営費や労務費・他の大枠の費用について <table><tr><td>KATARIBA 業務委託費</td><td>6,100 万円/年</td></tr><tr><td>諸経費</td><td>130 万円/年</td></tr><tr><td>役務</td><td>31 万円/年</td></tr></table> ・学生が放課後にb-1 a bやスタジオなどを利用する際に利用条件などは特にないが、事前に登録をして入退カードを取得しておく必要がある。中高生の利用は無料となっている。 ・施設概要 <table><tr><td>中高生談話スペース</td><td>145 m²</td></tr><tr><td>ホール</td><td>142 m²</td></tr><tr><td>音楽スタジオA</td><td>36 m²</td></tr><tr><td>音楽スタジオB</td><td>12 m²</td></tr></table>	KATARIBA 業務委託費	6,100 万円/年	諸経費	130 万円/年	役務	31 万円/年	中高生談話スペース	145 m ²	ホール	142 m ²	音楽スタジオA	36 m ²	音楽スタジオB	12 m ²
KATARIBA 業務委託費	6,100 万円/年														
諸経費	130 万円/年														
役務	31 万円/年														
中高生談話スペース	145 m ²														
ホール	142 m ²														
音楽スタジオA	36 m ²														
音楽スタジオB	12 m ²														

		室外プレイヤード 205 m² 室内軽運動室 144 m² スタッフスペース 89 m² などの場所に、W i - F i 完備で P C 4 台。タブレット 2 台。雑誌、漫画、書籍、任天堂 S w i t c h 2 台、ボードゲーム、ドラム、ギター、ベース、シンセサイザー、音響設備等が設置されている。 ・施設で学生が使用しない午前中の時間帯には、どのような団体や人が利用されているのか。 ⇒・ホールなど中高年の方が利用されることもあるが、有料での利用となっている。 ・ b - l a b から 何かに挑戦して、その後、アーティスト等で活躍している人がいるか。 ⇒現在の所いないが、O B、O G として、この運営に関与している人はいる。
所	感	・中高生の居場所づくりに特化した施設で、施設のコンセプトをしっかりとさせ、スタッフ等も充実してその対応にあたっている。また、楽器演奏やダンスなども個人、グループに関係なく無料で利用できるため、毎日、100 人近い中高生が利用する集いの場となっている。 イコーレ府中にもこうした中高生の集いの場を設け、午後からの賑わいやつながりを作っていける施設が必要と感じた。中高生の利用しない時間帯は、中高年の方が利用できる設備（カラオケ等）で利用して、時間帯別の賑わいを作っていけると感じた。 ・小学生は、放課後児童クラブ等で居場所を創れるが、中学生

	以上となると学校での公式的なクラブ活動しかなく、文京区の青少年プラザは中学生以上に場所を提供している。 b・l a bは難渋解放されており、活動の制限がないためフラット行けて自分を見つけるチャンスとなる。音楽・バンドや軽スポーツ等の設備も若者向きのものが設置されており、自分の知らない能力の開花につながる。 b・l a b出身のOB・OGともつながりができ、よき相談相手になれる。ボランティアや学生のインターンなど市民に支援の輪が広がっている。
--	---